合格おめでとうございます。
国際文化学科一同、皆さんとお会いできる日を今からとても楽しみにしています。
国際文化学科では、海外・国内で多様な異文化を実際に体験しながら、自分の「限界」をも超える「越境力」を養います。新たな出会いに、どうぞご期待ください。
皆さんが国際文化学科で実り豊かな大学生活を送り、広い世界へ羽ばたいていかれることを、心から願っています。

国際文化学科に合格された皆さんへ専任教員からのメッセージ
～授業で大切にしていること～

N.M.アディソン教授（イギリス文学、イギリス文化）
担当科目《原典講読：イギリスの物語文化》《原典講読：イギリスのフェミニズム》《留学演習（英語）》《SAP オックスフォード（英国）》《実践プログラム（海外 a オックスフォード（英国）》《実践プログラム（海外 b）》等
私のクラスでは、英国文化について英語と日本語で学びます。コースには、イギリス文化における女性とフェミニズム、英国の物語（映画と文学）と英国の芸術と音楽が含まれます。興味のある英国のトピックを選択して勉強することができます。

伊藤由希子准教授（倫理学、日本思想史）
担当科目《倫理学》《日本思想史》《SAP ニュージーランド》《実践プログラム（国内）》等
学生のみなさんにとって身近な話題や材料をきっかけに、学問レベルまでしっかり思想を深めてもらえるようにお手伝いすることで、みなさんの学問・研究の伴走者になれればと思っています。

奥波一秀教授（音楽文化史、ドイツ文化史、比較文化思想）
担当科目《音楽と社会》《ドイツ語圏の文化》《SAP 韓国》《実践プログラム（国内）》等
講義科目では、音楽やドイツ語圏をテーマに、文化について考える面白さをお伝えしたいと思います。SAP や実践プログラムでは、みなさんの問題関心が明確になるように、お手伝いをします。

木村覚教授　（美学、ダンス研究）
担当科目《美学》《身体メディア論》《SAP 台湾》《実践プログラム（国内）》等
大学での学びは、「他者」を知るレッスンです。自分とは意見の相入れない見解を受け止めたり、謎めいた表現を行う表現者の思いを汲み取ったりすることです。体験や実践を通して、自分を拡張し深めていきましょう。

河本真理教授（西洋美術史、現代芸術論）
担当科目《西洋近現代美術史》《現代芸術論》《比較芸術》《SAP ボストン（米国）》《実践プログラム（国内）》等
授業では、西洋美術史、とりわけ近現代美術の多様なあり方に触れ、その意味や背景をジェンダーを含めた様々な視点から学ぶことで、「新しいものの見方」を発見し、さらに問いを深めていくよう心がけています。SAP ボストン（米国）や実践プログラム（海外 a アメリカ：都市文化研究）では、海外での美術体験をサポートし、実践プログラム（国内）では、国際芸術祭・展覧会・美術館等の見学実習を通して、アートの社会における役割などについて考察します。

坂井妙子教授（イギリス文化史、ファッション史）
担当科目《イギリス社会とファッション》《世紀末文化論》《SAP オックスフォード（英国）》《実践プログラム（国内）》等
近現代のイギリス文化史を扱っていますが、個々の事例と解釈を通して、「歴史を見る目」を養うことを心がけています。実践プログラム：「西洋ファッション研究」では、学問としてファッションを研究するために必要な知識を学ぶとともに、現存資料を博物館、美術館で閲覧、調査します。

佐々木雄大講師（西洋哲学・倫理学）
担当科目《西洋哲学史》《哲学の基礎》《現代哲学》《SAP 南仏・パリ（フランス）》《実践プログラム（国内）》等
授業や実践プログラム「哲学カフェ」を通じて、哲学や倫理学の基本的な考え方を理解し、それらを単なる知識として覚えるのではなく、自分なりに世界を把握する視点をもち、〈いま・ここ〉にしばられない世界のあり方を構想するための方法として用いることができるようになることを目標としています。

杉山直子教授（アメリカ文学、アメリカ文化）
担当科目《アメリカ文学》《アメリカの人種・エスニシティ・ジェンダー》《SAP ニュージーランド》《実践プログラム（海外 b）》等
自分の主な研究対象は少数民族の女性による文学やアメリカ合衆国の人種観ですが、皆さんがそれぞれ自分の関心をさまざまな方向へ広げたりじっくり深めたりするための入り口の一つとしての役割を果たせる授業を行なっていきたいと思います。

高井奈緒准教授（フランス文学、フランス文化）
担当科目《フランス文化論》《フランス文学》《フランス文学と文化》《SAP 南仏・パリ（フランス）》《実践プログラム（海外 a フランス：西カトリック大学プログラム）》《実践プログラム（海外 b）》等
「おしゃれ」「かっこいい」などステレオタイプのイメージから抜け出て、様々な角度からより深くフランスを知ることで、学生の皆さんが複眼的に物事をとらえ、柔軟かつ論理的に考えることが出来るようになるよう心がけています。フランス留学に少しでも興味のある学生は、積極的に声をかけてください。

田中有美教授（日米比較文学・文化）
担当科目《アメリカ文化論》《アメリカ文化研究》《比較文学》《留学準備演習（英語）》《SAP ボストン(米国)》《実践プログラム（海外 a カナダ・アメリカプログラム）《実践プログラム（海外 b）》等
自分とは異なる考え方をする人や自分が知らない事に関心を持ち、誠実に向き合う姿勢を大切にしたいと思っています。そういった姿勢を、日本文化とアメリカ文化の関係や翻訳の問題を考察しながら身につけていけるような授業を目指しています。

中西裕二教授（民俗学、文化人類学、宗教研究、観光研究）
担当科目《日本観光文化論》《日本民俗文化論》等
文化に関する知識をつけ文化の現場に行くと、そこは今までとは違った世界に映るはずです。面白いですよ。そんな経験を是非国際文化学科で体験して下さい。

ヨハン・ノルドストロム准教授（映画学、日本映画史、映像論）
担当科目《映像表現論》《映画論》《実践プログラム（国内）》等
合格おめでとうございます。大学で過ごす 4 年間で、皆さんが様々な知識や経験を積み重ね、それらを将来の人生に活かせるスキルとして身につけていただけることを心から願っています。未来に何が起こるかは誰にも予測できませんが、人間として私たちにできることは、自分を取り巻く世界にどのように向き合い、応答していくかを選択することです。本学科での学びを通して、皆さんが人生の嵐に翻弄される小舟ではなく、自らの意志で針路を定め、能動的な学習者・批判的思考者として卒業後の未来を切り拓いていけるような授業を心がけたいと思います。

水野僚子准教授（日本・東洋美術史、表象文化論）
担当科目《アート・アクティヴィズム》《日本中世絵画史特論》《SAP ボストン(米国)》《実践プログラム（国内）》等
多くの文化や価値観が交錯する社会の中で、自分の「ものの見方」や立場を深く考えることは重要です。
授業では、美術や身近なビジュアルイメージの分析を行い、そこに隠されたジェンダー・階級・人種(民族)等の基礎知識や分析の楽しさとその意義を学び、自らそれらをクリティカル（批判的）に考察できるようになることを目指します。そして、視覚的イメージが、ジェンダーやナショナリズム、民族観といった、社会や個人の思想や価値観の形成といかに深く関わっているのか、具体的なイメージ分析を通して一緒に考察します。こうした学びを積み重ね、実践プログラム（国内）では、主に国内の絵画や建築等の文化財の調査や、美術展・芸術祭等のフィールドワークを行うことにより、観る力や分析・考察の方法を身につけ、ディスカッションを通して、美術を含む視覚的イメージや情報との向き合い方を、実践的に養います。

三田明弘教授（説話文学、日中比較文学）
担当科目《現代アジア文化論》《中国古典文化論》《SAP 台湾》《実践プログラム（海外 a 中国：河南師範大学プログラム）》《実践プログラム（海外 b）》等
現代に通じる人間の普遍的問題が提起され、考察されているからこそ今日まで伝えられた古典の魅力が理解で

きる授業を目指しています。

福田恭子助教（西洋美術史、フランス近世美術史）
担当科目《西洋美術史概説》《西洋美術史特論》
古い時代の西洋美術を理解するためには、当時の人々の教養や思想と照らし合わせて作品を読み解く必要があります。授業では、神話や聖書、歴史の知識に基づいて作品を分析し、時代や地域、画家ごとに異なる様々な造形や、作品をめぐる文化的な背景について考えています。

波瀬山祥子助教（日本近世絵画史、日本美術史）
担当科目《日本美術史概説》《日本美術史特論》
日本美術という学問になじみのある人は少ないと思います。絵を見ることに苦手意識がある人もいるでしょう。しかし、現代の私たちと感覚を共有できる作品は驚くほどたくさんあります。今までより「一歩」近づいて作品を観察してみましょう。授業では多くの絵をみながら、造形の面白さや、作品の成り立ちについて考えていきます。

国際文化学科では、１年次に海外短期研修、２・３年次に中期、長期留学をする機会があります。入学前に必ずパスポートを準備しましょう。また、英語や他の外国語に触れる機会をつくったり、留学の準備として語学の勉強をしたりすることをおすすめしています。
特に２年次からの長期留学を検討している人は、力試しのため、TOEFL や IELTS を受検するのもよいでしょう。

（参考）英語圏への留学・・・協定大学 TOEFL iBT61 以上　IELTS6.0 以上
認定大学 TOEFL iBT51 以上　IELTS5.5 以上

その他、本学の留学制度について詳しく知りたい方は、大学 HP を参照してください。
https://www.jwu.ac.jp/unv/international_exchange/index.html

【回答依頼】SAP 事前アンケート
国際文化学科では、合格者向けにスタディ・アブロード・プログラム（SAP）希望研修先アンケートを実施しています。ぜひご回答ください。
https://forms.cloud.microsoft/r/dvThVyzfRD